

# 宮城県林業普及活動情報

2022. 4月号 No. 167

## もくじ

各地の林業普及活動情報	P 2 ~ 8
○森林づくりPR活動の推進	(大河原地方振興事務所)
○令和4年度林業振興関係業務推進会議の開催	(大河原地方振興事務所)
○県産木材(チップ)の需要創出に向けた取組	(仙台地方振興事務所)
○竹やぶ会議への支援	(北部地方振興事務所)
○他県産しいたけ原木の納品検査等	(北部地方振興事務所)
○大崎東部地区の森林経営計画作成支援	(北部地方振興事務所)
○加美町産の広葉樹の有効活用	(北部地方振興事務所)
○タケノコ・山菜等の出荷管理の要請	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○「ねじりほんによの木製椅子」が完成しました!	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○提案型植栽施行地の事前打ち合わせ	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○間伐事業の支援	(東部地方振興事務所)
○原木しいたけ栽培支援	(東部地方振興事務所)
○合板用県産材の供給等に関する検討会	(東部地方振興事務所)
○みんなでカラマツの苗木を植えました!	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○森林・林業行政推進に向けた会議の開催	(気仙沼地方振興事務所)
○みやぎ森林・林業未来創造カレッジスタートアップ研修の開催	(林業技術総合センター)
○市町村林務担当職員研修会を開催	(林業技術総合センター)

## もり 森林づくりPR活動の推進

大河原地方振興事務所

【12日(火)】

一般県民へ造林・森林整備の大切さを伝え、苗木の需要拡大につなげる仕組みづくりを検討するため、異業種（テレビ番組制作会社）の方と、苗木生産現場の視察を行いながら、森林づくりの推進に向けた意見交換を行いました。

「苗木目線で、植林されるまでの一連の流れを紹介できたら面白いのではないか。」「スギ花粉なども問題もあり、広葉樹の植栽は興味深い。」などの意見が出されました。

今後も、継続して異業種と連携しながら、森林づくりのPR手法等について検討していきます。



【視察の様子】

## 令和4年度林業振興関係業務推進会議の開催

大河原地方振興事務所

【27日(水)】

管内市町の担当者を参集し、今年度の各種事業等に関して、事業要件やスケジュール、留意事項等について説明するとともに、地域の林業・木材産業の発展に向けて、補助事業の有効な活用による森林の適正な管理・保全や、木材利用の拡大などについて、取組みを推進するよう要請しました。

今後も、個別指導等により業務推進を図っていきます。



【会議の様子】

## 県産木材（チップ）の需要創出に向けた取組

仙台地方振興事務所

【20日(水)】

木質バイオマス発電所設置の動きが広がる中、燃料となる木質バイオマスチップの安定供給に向け、木材業者等を訪問し、生産に必要とされる切削チップパーの保有状況を調査しました。

今後は、生産・集荷に必要な条件を整理し、各事業者とともに集荷体制の構築に向けた検討を行います。



【チップ用の原木が搬入されている様子】

## 竹やぶ会議への支援

北部地方振興事務所

【7日(木)】

たけのこ生産者や竹加工業者等で組織する任意団体「竹やぶ会議」の情報交換会に出席し、情報収集を行うとともに、県の事業（みんなの森づくり事業等）の紹介を行いました。

情報交換会では、各種イベントへの参加の仕方や出品方法、事業を行う場合の課題、対応策、県への要望等、活潑な意見が交わされ、今後の活動が期待されました。

引き続き、情報提供等の支援を行ってまいります。



【竹やぶ会議の様子】

## 他県産しいたけ原木の納品検査等

北部地方振興事務所

【7日(木), 8日(金), 14日(木)】

原子力発電所事故による放射性物質の影響を受け、現在もなお、県内産原木を使用することができない状況が続いています。

原木しいたけ生産者が、他県産原木の使用を余儀なくされる中、他県産原木利用者へ納品検査を行う際に、要望聴取や情報収集を行いました。

各生産者からは、「早期に県内産原木が使用できるよう、引き続き国との協議を進めて欲しい。」との要望等がありました。

このため、県庁（林業振興課）と情報共有し、粘り強く、県内産原木使用に向けた取組を継続します。



【他県産原木納品時の写真】

## 大崎東部地区の森林経営計画作成支援

北部地方振興事務所

【19日(火)】

大崎市の事業体が森林経営計画策定を進めるための支援を行いました。

区域計画策定候補者の森林所有者1名に対して、制度の説明や計画策定後の取り扱い（メリット・デメリット等）を説明する事業体を補佐し、森林所有者から計画策定を進める事について了解を得ることができました。

今後は、事業体が現地確認等を行い、計画作成を進める中で必要に応じて支援を行ってまいります。



【森林所有者への説明の様子】

## 加美町産の広葉樹の有効活用

北部地方振興事務所

【22日(金)】

広葉樹林の持続的な材利用を推進するため、林業技術総合センターの協力を得て、加美町有林で実施した森林育成事業（更新伐）で得られた材を活用して、木製家具を製作しました。

この木製家具（テーブルセット2組）は、新たに立て替えオープンした加美町中新田公民館のロビーに設置しています。

今後、「木の日」等の機会を捉え、地域材、広葉樹材を用いた木材利用のPRを行うこととしています。



【加美町中新田公民館に設置した地元産広葉樹材の木製家具】

## タケノコ・山菜等の出荷管理の要請

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【13日(水)ほか延べ7日】

出荷制限指示が継続中の栗原市のタケノコ（花山、栗駒、鶯沢、金成地区）やタラノメ（栗原市全域）の出荷者に対して、解除に向けたモニタリング調査への協力に加え、解除となったコゴミ等の出荷前検査・定期検査への協力を要請しました。

特に栗原管内の各直売所に対しては、山菜類等が持ち込まれる際、生産者登録の確認、出荷前検査の徹底等の注意喚起等を行い、食品基準値（100Bq/kg）を超える山菜等が流通することの無いよう協力を要請しました。

また、栽培・出荷者認証登録においては、採取地や出荷先等に変更・追加があった場合は、変更申請書を提出するよう指導しました。



【直売所等に対して、出荷前検査・定期検査への協力や生産者登録の確認等についてあらためて要請】

## 「ねじりほんによの木製椅子」が完成しました！

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【4日(月), 12日(火), 26日(火)】

栗原市のマスコットキャラクター「ねじりほんによ」のぬいぐるみは、お尻の所に稲杭が刺さっており安定性が悪く転がってしまうため、(株)くりこまくんえんに「ねじりほんによの木製椅子」の作製を依頼していましたが、今回、販売に向けた最終打合せを行いました。

商品化においては、稲杭を納める穴の位



置や、椅子のデザイン、背もたれの角度などの検討を行ってきましたが、最終的に、背もたれ部分は既製の木製コースターを活用する、その角度は座面の溝の幅で調整する、コースター・ホルダーを兼ねた椅子とするなどの多くのアイデアが集積されています。

そして複数の試作を経て完成した椅子は、背もたれの両面に「ねじりほんによ」のイラストの刻印と面取も施され、木のぬくもりが感じとれる商品となっており、今後、観光物産協会等の承認を経て、椅子単体の販売に加え、ぬいぐるみとのセットでも販売されることとなりました。



【こんなパッケージで販売します】

### 提案型植栽施行地の事前打合せ

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【13日(水)】

株式会社くりこまくんえんが今年度実施するスギコンテナ苗を使用した一貫作業植栽地について、事業の進め方について話し合いをしました。

特に本事業の目玉である1,500本/ha植え及び2,500本/ha植えの比較については、効果的なデータを取得するには、同条件の勾配が良いと判断し設定したところです。

また、伐採後に発生する枝葉についても極力少なくするべく、バイオマス利用について検討中です。

今後とも進捗にあわせて、労務日数などのデータ収集を行い、コストの低減に向けて技術支援していきます。



【担当職員への事業計画作成指導】

### 間伐事業の支援

東部地方振興事務所

【5(火)】

間伐事業を計画する林業事業体と事業推進に係る打合せを行い、施業内容や補助申請時期を調整しました。計画内容は搬出間伐・作業道開設でしたが、現地は条例による保護区域内であるため、許可等に必要となる事務手続きを指導しました。また、計画面積が全体で20haを超えるため、施業単位の5haを目安に複数に回に分けて申請することになりました。今後も引き続き適正な事業管理を支援する予定です。



【事業体との打合せ状況】

## 原木しいたけ栽培支援

東部地方振興事務所

【18日(月)】

他県産の原木購入支援を活用し、しいたけ栽培に取り組んでいる生産者に原木の配達があったため、納品本数等の確認を行うと共に、現在の栽培状況を確認しました。

現在、主に首都圏外食向けに出荷をしている事業者からは、コロナ禍の影響から需要回復傾向にあることや、品質を維持しつつ、発生効率を保つよう、栽培技術を工夫している点などを確認することができました。今後とも施設整備などに向けた支援を継続していきます。



【他県産原木の納入確認の状況】

## 合板用県産材の供給等に関する検討会

東部地方振興事務所

【27日(水)】

合板用県産材原木の需給安定を図ることを目的に、宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部と協力して検討会を開催し、これまでの素材納入実績や今後の計画などについて意見交換を行いました。

出席した素材需給関係者からはロシア材輸入禁止に伴う合板単板不足や国産原木価格の値上げの話題が多く出されました。特に代替材であるカラマツ材価格の上昇や、スギ原木においても納入価格から隣県の製材工場に流れやすいこと、合板工場側でも、働き方改革の取組により増産対応が難しいことなどが報告されました。

なお、今年度の需給見通しは、需要量>供給量となっており、原木供給の確保に向け、関係者がより一層連携していく必要があることが確認されました。



【検討会意見交換の状況】

## みんなでカラマツの苗木を植えました！

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【25日（月）】

津山町林業研究会が主催する体験学習（植林）を支援し、横山小学校の6年生を対象として、カラマツ苗木の植栽作業をお手伝いしたほか、森林や木の話、地球温暖化を防止する森林の重要な働き等について、パネルを活用して説明しました。

気温や湿度が高い過酷な環境下での作業でしたが、津山町林業研究会と協力して植栽作業をサポートした結果、怪我もなく予定どおり作業を終えることができました。

参加した小学生には、地球温暖化対策のうち吸収源対策を進める根幹が森林の保全・整備であり、植林作業がその一端を担う重要な作業であることを理解してもらいました。



【温暖化を防止する森林の機能に興味津々】

## 森林・林業行政推進に向けた会議の開催

気仙沼地方振興事務所

【28日（木）】

コロナ禍により開催を控えていた林業行政推進会議が3年ぶりに開催されました。

会議には、管内の森林・林業に係る関係者（市町・森林組合・林業事業者等）27名が出席され、令和4年度の森林整備に係る補助事業や森林経営管理制度への取り組みのほか、木材産業や労働力対策に係る内容について、前年度の取り組みとの変更点などを中心に説明を行いました。

今後、各種補助事業の要望等、活用に向けた取り組みを支援していきます。



【会議開催状況】

## みやぎ森林・林業未来創造カレッジスタートアップ研修の開催

林業技術総合センター

【18日（月）】

研修生12名の参加を得て標記研修の第1回をセンターで実施しました。ガイダンスに引き続き「林業に就業したきっかけ・理由」を自己紹介し、相互理解による交流の一助としました。講義は「造林から収穫までの基礎知識」「木材の生産・利用・流通販売の基礎知識」「宮城の森林・林業の現状と課題、政策の動向」とし、森林・林業の基礎知識と県の取組等について理解を深めてもらいました。



【講義の様子】

今後も研修生の指導支援に努めます。

## 市町村林務担当職員研修会を開催

林業技術総合センター

【28日(木)】

例年、センターが主催する市町村林務担当職員研修会を開催しました。

講義内容は、市町村森林整備計画、森林経営計画及び森林経営管理制度についてです。

森林・林業用語の基礎知識の单元においては「森林・林業用語の基礎知識」及び「宮城県民有林材積表及び林分収穫表」を配布し理解の助けとしました。普及指導員は、市町村森林整備計画付属図作成演習でフォレスターを演じました。

今後も森林の適切管理に向けて市町村を支援します。



【市町村森林整備計画付属図の説明演習】